どんぐり

No.86

内　容

○巻頭言「朝来山の自然が育む心の成長」
○自然学校中のケガの防止に向けて
○令和６年度の「実施報告書」から見えてくる自然学校
○アクティビティ紹介「野外炊事」
○歳時記「同じ穴のムジナ！？」

「朝来山登山」（令和７年度　朝来市和田山地区自然学校）

兵庫県立
南但馬自然学校
HYOGO KENRITSU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO
Nature Education Center

朝来山の自然が育む心の成長

兵庫県立南但馬自然学校長
西岡　智也

竹田城跡を望む朝来山のふもと、夏の深い緑に包まれたこの地に、県立南但馬自然学校はあります。蝉の声が森に響き、鳥のさえずりが朝の空気を彩る中、今年も多くの子どもたちがこの場所を訪れています。自然と向き合い、自分と向き合い、仲間と過ごす学びの時間が始まります。

この自然学校での時間は、単なる「体験」ではありません。たとえば、水辺でアカハライモリを見つけて「お腹が赤い！」と驚く子どもたち。そっと観察しながら命の不思議に触れています。石の下からサワガニが現れると「いた！」と歓声が上がり、夢中になって追いかけます。グミの実を見つけて「すっぱい！」と笑い合う瞬間。こうした自然とのふれあいは五感を通して心に深く刻まれ、子どもたちの中に「気づき」や「問い」を生み出します。

自然は、時に優しく、時に厳しく、子どもたちに語りかけてきます。朝来山への登山では、急な坂道に息を切らしながらも一歩一歩足を前に出す子どもたちの姿があります。途中で「もう無理かも」とつぶやいた子が、仲間の励ましを受けて再び歩き出す場面もありました。頂上にたどり着いたときの達成感と、眼下に広がる風景を見たときの歓声は、まさに努力の証です。こうした経験の積み重ねが「生きる力」や「共に生きる力」へとつながっていくのです。

この自然学校にやってくるのは小学５年生たちです。心も体も大きく変化するこの時期に、自然の中で過ごす時間は、まさに成長のきっかけに満ちた時間です。最初は不安そうだった子が、最終日には自信に満ちた表情で仲間に声をかける姿。自分のことだけでなく、友だちのことを思いやる言葉が自然と出てくるようになる姿。自然の中での経験が、子どもたちの内面に確かな変化をもたらしていることを、私たちは日々感じています。

自然学校は、子どもたちだけでなく、関わるすべての大人にとっても気づきと成長の場です。私たちも子どもたちの姿に励まされ、学びを深めています。学校の先生方をはじめ、支えてくださる多くの皆様のご尽力により、自然学校は豊かな学びの場となっています。皆様の温かなまなざしとご支援に心より感謝申し上げます。

朝来山の自然が教えてくれることは、世代を超えて心に響く大切な学びです。これからも、この豊かな自然の中で、子どもたちと共に歩み、共に学び続けていきたいと思います。

羽化したてのニイニイゼミ

自然学校中のケガの防止に向けて

自然学校期間中、子どもたちがケガや病気をせず、元気に体験活動に臨むこと。我々県立南但馬自然学校の職員にとってもそれが一番の願いであり、安全を第一とした施設運営や助言に努めています。しかし、慣れない場所で活動する以上、子どもたちには常にケガのリスクが伴います。そこで、本校で30年間蓄積した傷病発生状況のデータをもとに、ケガの傾向と防止に向けたポイントを紹介します。

【表１】を見ると、ケガの内容は切り傷・擦り傷が最多で、打撲を加えるとこれだけで全体の半数を超えます。

【表２】から、受傷した場所で最も多いのは生活棟及びその周辺です。意外にも屋内で受傷するケースが多い実態が見えてきます。

【表３】から、「プログラムにおける活動」では、野外炊事やクラフトでケガが多く発生していることがわかります。また、「プログラム外における」活動では自由時間中のケガが多く、全体の約４分の１を占めます。

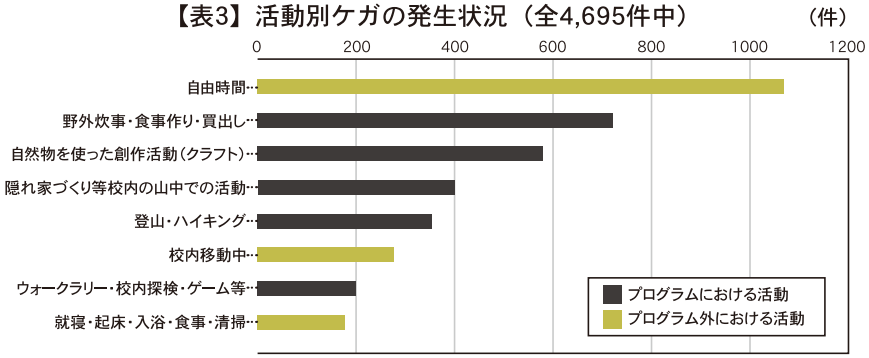
【表1】ケガの内容

	傷病名	割合(%)
1	切傷・擦過傷	33.2
2	打撲	18.7
3	捻挫・突き指	11.2
4	虫刺され	9.8
5	火傷	8.1

【表2】場所別ケガの発生状況

	傷病名	割合(%)
1	生活棟及びその周辺	20.0
2	野外キッチン	15.6
3	工作棟及びその周辺	10.2
4	芝生広場・大屋根広場周辺	10.1
5	朝来山及び竹田城跡の登山道	8.6

【表3】活動別ケガの発生状況（全4,695件中）



◇ケガ防止のためのポイント◇

（1）プログラム活動中

子どもたちの様子を見ていると、教員や指導補助員の目が行き届いてないところやオリエンテーション等の注意喚起が行き届いていない場合にケガの発生が見受けられます。大きなケガにつながる前に、次の２点を意識してみましょう。

①多くの大人の目が必要です。特に、隠れ家づくりと野外炊事では１グループにつき１人がつくことを基本としましょう。立ち位置や動線、有事の際の動きなどについて、指導補助員も加えて入念な打合せが必要です。

②安全上守って欲しいことは入校時やオリエンテーションの際に本校職員からも伝えています。先生方もそれに耳を傾け、同じ基準・適切なタイミングで指導することが大切です。

（2）プログラム活動外

プログラムの合間に「魔の時間」が潜んでいます。子どもたちだけでなく大人もつい気が緩んでしまいがちですが、やはり多くの目で見守ることが必要です。また、子どもたちにプログラム外でもケガが起こることを繰り返し伝えてください。

◇ケガへの備えは「日常」から◇

どれほど大人が注意を促しても、その注意が子どもたちの実際の行動として現れなければケガは起こってしまいます。自然学校という特別な機会だけでなく、「普段」の生活から、ケガが起こりそうな状況や雰囲気を感じさせることは重要です。「こんなことをしたらケガをしてしまうかな」「危ないからやめておこう」と、子どもたち自身が気づき、考えて、危険を未然に回避できるような力を育てていきたいものです。

（福岡 麻衣）

令和６年度の「実施報告書」から見えてくる自然学校

県立南但馬自然学校の各利用校は児童のために特色あるプログラムをデザインし、４泊５日の自然学校を実施しています。

さて、プログラムをデザインする上で重要なのは何でしょうか。

それは児童の実態を把握し、自然学校を通して児童にどのような力を身につけさせたいのか、何を感じて何を考えてほしいのかを整理し、「ねらい」を設定すること。また、その「ねらい」を達成するために必要な活動を組み合わせることで５日間のプログラムをデザインすることです。

ただし、先生方各々の視点ではなく、共通の視点で児童の実態を把握することが大切です。その共通の視点とは「学校教育目標」です。

学校教育目標におけるめざす児童像と児童の実態の差異を明確にすることが実態把握であり、その差異を埋めるために「ねらい」を設定し、必要な活動を考えるのです。

このように考え実施した自然学校における実施報告書から、どのような様子が窺えるのでしょうか。

今回はその結果を考察します。

自然学校のねらいを十分達成出来たと思われる項目とねらいの達成度について

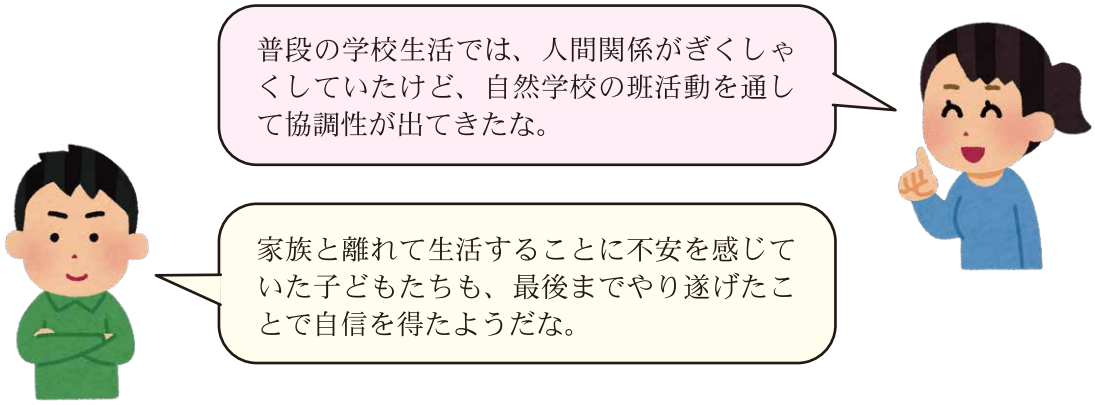
【表1】自然学校のねらいと達成度

ねらい	%
(1) 自然に関する興味・関心を高める	93.8
(2) 自主性・主体性を培い、判断力を身につけさせる	79.7
(3) 集団生活を通して協調性を高め、思いやりの心を育てる	93.8
(4) さまざまな活動を通して、豊かな感性を育む	76.6
(5) 健康増進を図る	23.4
(6) 地域とふれあいを通して感謝の心や奉仕する心を養う	6.3
(7) 成就感・達成感を味わわせ、新たな課題に取り組む意欲を育てる	92.2
(8) その他（他校の友達と交流を図ることができた。互いの良さを認め合い、集団として高め合えるようになった。）	3.1

【複数回答あり、64団体中未回答なし】

(1)、(3)及び(7)については、できたと評価した利用校の割合が90％を超えており、高くなっています。利用校は、自然に対する興味・関心、協調性を高め、思いやりの心を育て、成就感や達成感を味わわせることができたと実感しています。

また、(2)や(4)も75％を超えており、低くはありません。この５日間で、自主性・主体性を培うことができ、判断力も身についた。豊かな感性を育てることができたと実感しています。



各活動においてのねらいが明確になるように評価の観点をつくった。その観点とともに児童の実態を指導補助員に伝えることで、共通の声掛けや指導ができた。自然学校を通して、他者と協力して過ごすことの大切さに気づくことができた児童が多かった。

このような感想がありました。

先生方は大変な思いをしつつ、何か月も前から準備をし、５日間のプログラムを実施しています。

そのような中で、前向きな感想が持てるような成果を実感できることがうれしいですね。

一方で、実施後の反省には次のような内容がありました。

施設が充実しており、その中で十分に活動することができた。しかし、施設の周辺地域を活用したプログラムを計画することもできたように思う。

プログラムに幅を持たせて、子どもたちが選択できる要素を取り入れ、じっくり考え試行錯誤を取り入れていくことも必要だと感じた。

隠れ家づくりでの事前学習（出前事業）や時間配分について、子どもたちが意欲的に取り組むことができる手立てが欠けていた。

プログラムの構成等を工夫し、子どもたちにつけたい力を明確化しながら、本校の学校教育目標の実現に向けた活動に取り組むようにしていきたい。

先生方は、限られた資源（主に５つ：施設、自然、地域文化・産業、人材、資金）を最大限に生かして自然学校を充実させようと考えておられます。

その中でも、特に人材の確保が年々難しくなっているようです。学校規模によって異なりますが、指導補助員（リーダー）を13人確保できた学校から、指導補助員や救急員が直前まで決まらないという学校までありました。昨年度より、指導補助員等の人材バンクを作成し、各校からの照会に対応しています。詳細は本校指導課（079-676-4731）までご相談ください。

PDCAサイクルを活用し、目の前の児童のためにより充実した自然学校を実施しようと尽力されている先生方には、心から敬意を表します。

県教育委員会ホームページには、持続可能な自然学校となるように、指導資料「持続可能な自然学校の充実に向けて（令和７年３月）」が公開されております。是非参考にしてみてください。

（二次元コードはこちら）→

（佐藤 貴康）

アクティビティ紹介 ～野外炊事～

令和６年度に県立南但馬自然学校で自然学校を実施した利用校（連合）の野外炊事の実施率は100％でした。

野外炊事のメニューで一番多いのがカレーライスです。次に多いのが、よく朝食としてとり入れられているカートンドッグです。

火おこし体験も取り入れながら、おこった火を利用しての調理が自然学校での定番となっています。しかし、野外炊事で取り組めるメニューはまだまだあります。今回は、カレーライスとカートンドッグ以外の２つのメニューを紹介します。

牛乳パックでカートンドッグづくり

棒焼きパン

《準備物の（※）は本校の貸し出し備品として用意している準備物です》

食堂に注文すると発酵したパン生地が届きます。そして、その名のとおり、棒を用いてパンを焼きます。焼きたてのパンを簡単に調理でき、味わえるメニューです。

【準備物】棒焼きパン用棒（※）、アルミホイル、バーベキューコンロ（※）、木炭、パン生地

①コンロで炭火をおこしておきます。
棒にアルミホイルを巻きつけます。

←届いたパン生地

②パン生地を親指ぐらいの太さでのばし、
アルミホイルの上から棒に巻きつけます。

③炭火にかざし、パンを焼きます。
時々回しながら、焼き色をつけます。

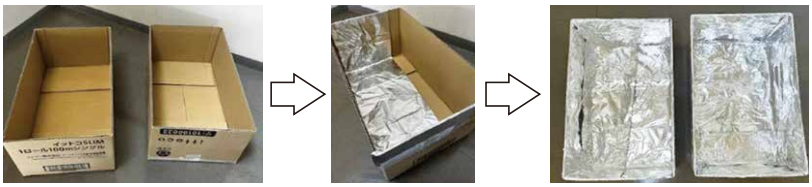
④こんがりと焼き上げれば、できあがり
です。手でちぎって食べます。

段ボール窯をつくって、ピザを焼くことができます。ピザ生地づくりから調理することもできますし、ピザ生地を注文することもできます。今回はピザ生地づくりから調理する場合を紹介します。分量については、４枚分の分量を記載します。

【準備物】段ボール、ガムテープ、アルミホイル、バーベキュー網、木炭、段ボールカッター、耐火レンガ（※）、アルミトレイ、強力粉500ｇ、ドライイースト８ｇ、塩８ｇ、水250ml、オリーブオイル100ml、ピザソース１缶、玉ねぎ１個、ピーマン４個、チーズ200ｇ、トマト１個、ウインナー８本、包丁（※）、ボール（※）、ラップ、牛乳パック

《段ボール窯づくり》

段ボールを上下二つに切り、段ボールの内側にガムテープを使ってアルミホイルをすき間なくはります。



①生地となる材料を混ぜて、こねます。

②生地をまるめてボールに入れ、乾燥しないようにラップをし、発酵させます。

発酵時間は季節によって変わります。生地が1.5倍～２倍になり、写真のように指で真ん中に穴が空けば発酵完了です。発酵中に具を切っておきます。

③発酵が完了すると、生地をたたいてガス抜きをし、一人分の大きさに切って、軽くこね、まるめて10～20分休ませます。

④生地をのばし、トマトソースや具、チーズをのせ、10分ぐらい焼くと、できあがりです。

片方の段ボールに下から、耐火レンガ→おこした炭が入ったアルミトレイ→網の順に乗せます。

もう一方の段ボールをかぶせ、内部を十分温めてから焼きましょう。

野外炊事ではいろいろな料理に挑戦することができます。定番のカレーライスも楽しいですが、今回の２つのメニューも子どもたちに人気です。是非、柔軟に検討をされてはいかがでしょうか。

（深田 東磨）

歳時記

「同じ穴のムジナ」ということわざがありますが、これは「ちょっと見たところ、なにも関係がないようで、実は同類である」ことの例えです。良い意味で使われることはなく、「悪事を働く集団」を表しています。

ところで、ことわざの中に出てくる“ムジナ”とはある動物のことですが、いったいどんな動物でしょうか。本校の周辺では“ムジナ”といえば、アナグマを指しますが、タヌキをムジナと呼ぶ地方もあり、その他、中型の動物を全部ひっくるめて“ムジナ”とする地方もあるらしいのです。「所変われば品変わる」、本当にややこしいですね。

さて、ここにぽっかりと空いたコンクリート製の排水口があります。この人工の穴を、様々な動物が通路や退避場所として上手に利用し生活しています。

しかし、これらの動物たちの中には、時として農作物を食べてしまったり、家屋に侵入して棲み付いたりすることもあるので、被害を受ける人々にとっては、それぞれが別種であっても「同じ穴のムジナ」ということになりますね。

それでは、二次元コードをスマホなどで読み取り、排水口を利用する本校のムジナ？たちの様子をご覧ください。

https://youtu.be/9avA9u8D1ng?si=fwQMZ-SO_FsOThK1

（文責・画像　増田　克也）

南但馬自然学校だより「どんぐり」No.86　● 令和７年８月　● 兵庫県立南但馬自然学校発行
● 〒669-5134 兵庫県朝来市山東町迫間字原189　● TEL(079)676-4731　● FAX(079)676-4008
● URL　https://www.shizengakko.jp/　● E-mail Mtajimashizen@pref.hyogo.lg.jp

07教 Ⓟ2-013A4

VEGETABLE OIL INK 資源保護のため環境に優しいベジタブルインキで印刷しています。